

中国の経済

四つの近代化

前田 寿夫

広大な領土に少ない一人当りの耕地面積、豊富な工鉱業資源の一方に乏しい森林資源の実態、世界一の人口を誇る中国経済の基礎的条件は、必ずしもバランスのとれたものではない。四つの近代化を掲げ西側先進諸国の経済・技術水準への到達を目指す中国経済の歴史・現状・将来。



KYOIKUSHA

入門新書

前田 寿夫 (まえだ・ひさお)

大正8年12月栃木県生まれ

昭和16年12月東京商科大学卒業

昭和26年4月東海大学助教授

現在、防衛研修所第1研究室長

著書、『中共の経済力』鹿島出版会

訳書、『中国の統計機構』東大出版会

『中国本土の経済的プロフィール』時事通信社

中国の経済／時事問題解説・59

著 者——前田 寿夫

発行者——高森 圭介

発行所——株式会社 教 育 社

販 売——教育社出版サービス株式会社

〒102 東京都千代田区富士見2-11-10 丸十ビル
電話 (03) 264-5477 (代)

(分)1233 (製)71359 (出)1498 © 教育社 1978年

落丁本・乱丁本はお取り替えいたします。

中国の経済

目次

第1章 概観・中国経済の基礎的条件	7
1 領土と耕地	7
広大な領土／少ない一人当り耕地	
2 乏しい森林資源	14
干害と水害の頻発／その他の経済的影響	
3 工鉱業資源	20
石油資源／水力資源／石炭資源／鉄鉱石資源／その他の地下資源	
4 人口	38
総人口／全国人口の増加率／人口の分布	

第2章	中国経済の推移	51
1	復興期（一九五〇～五二年）	51
	インフレの収束／生産回復と社会主義の萌芽	
2	第一次五カ年計画（五三～五七年）	56
	重工業優先の計画／社会主義改造の急進展	
3	第二次五カ年計画と「大躍進」運動（五八～五九年）	64
	計画無視の大暴走／人民公社／統計の水増しと「大躍進」の後退	
4	「三年連続大災害」と調整政策（五九～六五年）	75
	大災害とソ連援助停止／政策の大転換	
5	第三次五カ年計画と「文化大革命」（六六～七〇年）	82
	消息を絶った第三次計画／文革の経済的原因／文革の経済的影響	
6	第四次五カ年計画（七一～七五年）	93

二つの路線／路線闘争の激化と「四つの近代化」／経済活動の推移

第3章 中国経済の現状……………105

1 第一步でつまづいた「第五次五カ年計画」……………105

政治的混乱、大地震、異常気象／崩壊寸前の国民経済

2 華国鋒・新体制による経済政策の大転換……………111

「四人組批判」と鄧小平再復活／七七年の工農業生産／財政事情の好転と賃金引

き上げ

3 数量的にみた中国経済の現水準……………125

個別品目の生産量／最近の国民総生産G N P

4 対外貿易と日中貿易……………133

対外貿易の推移／日中貿易

5 対外援助……………144

ソ連からうけた援助／中国が供与した対外援助

第4章 今世紀末までの長期経済計画……………151

1 長期構想と長期目標……………151

周恩来構想と長期目標／今世紀末までに到達すべき具体的目標

2 中期計画……………160

国民経済発展一〇カ年計画／科学技術八カ年計画

第1章 概観・中国経済の基礎的条件

1 領土と耕地

広大な領土

中華人民共和国の領土は、大陸部だけでも南北四、二〇〇キロ（南沙群島の最南端まで含めると五、五〇〇キロ）、東西四、五〇〇キロ。面積にして約九六〇万平方キロ（台湾は三・六万平方キロ）に及び、ソ連（二、二四〇万平方キロ）およびカナダ（九九八万平方キロ）に次いで世界第三位の大きさである。それは、アラスカを含めたアメリカ合衆国をいくらか上回り、日本の全領土（三七万平方

キロ）に比べて約二六倍に相当する。中国大陸の行政区画は二一の「省」と五つの「民族自治区」で構成されており、民族自治区は省に相当するから、一省あたりの平均面積がほぼ日本と等しいわけだ。

狭隘な島国に住む日本人は、しばしば広大な国土をもつ国に羨望感を抱き、中国大陸の面積が日本の二六倍もあるといえ、ただそれだけで圧倒されがちである。確かに、領土が広大であれば、利用可能な土地も広く、豊かな天然資源を包蔵する可能性が大きくなる。しかしそれはあくまでも一般論であつて、いくら国土が広くとも、必ずしも利用可能な土地が広いとは限らないし、天然資源が豊富に存在するとは限らない。また、かりに天然資源があつたとしても、経済的にそれを利用できるとは限らないのである。

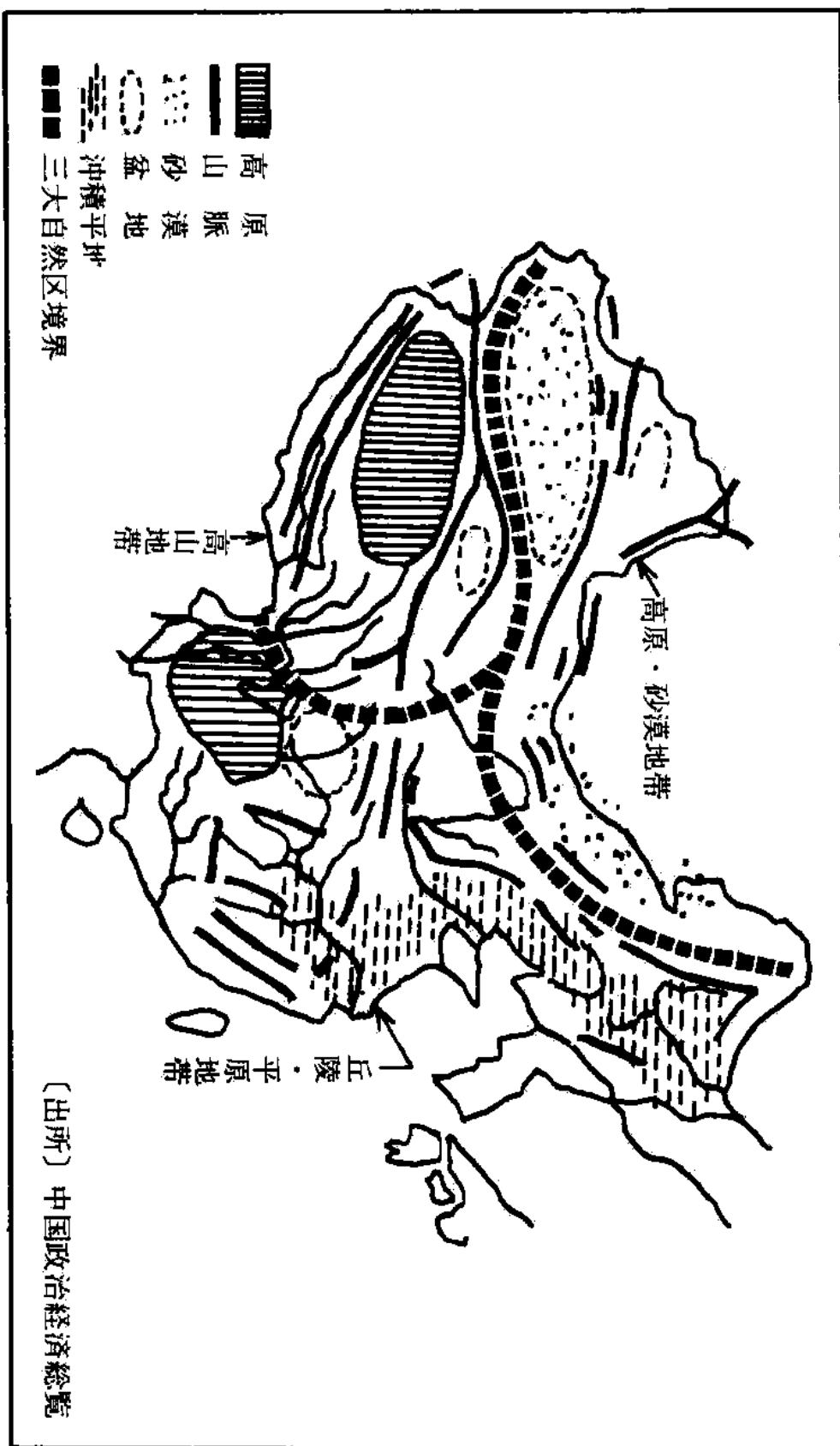
残念なことに、中国大陸の位置ならびに地形は、その経済的利用価値を著しく

減少させているといわねばならない。中国大陆はその周辺の三分の一を海洋に面しているだけで、他の三分の二は陸地に囲まれている。また、全国土の三分の一（チベットを含む西南地方）はヒマラヤに連なる高山地帯、西北方の三分の一は海拔一、〇〇〇～二、〇〇〇メートルの高原地帯で、海拔一、〇〇〇メートル以下の丘陵・平原地帯は、東北から東南にかけての残り三分の一にすぎない。このため、国土の大部分は交通に恵まれず、経済開発に困難がある。また、海洋からもたらされる湿潤な空気は、海岸から遠ざかるにつれて急速に水分を失い、奥地を極度に乾燥させ、砂漠をつくっている。

少ない一人当り耕地

一般にわが国では、中国大陆には農業に適した土地が無限に広がっているかの

図 1.1 中国大陸の三大地域区分



ように想像する人が多いけれども、実際のところ、中国大陆の大部分は山岳と砂漠で、農耕に利用できる面積は全体のわずか一％弱しかない。日本は島国で山地が多く耕地面積は少ないと考えられているが、それでも全国土に対する耕地の割合は、高度成長に伴う農地転換や減反政策が行われるまで一六％以上に及んでいたのである。中国大陆の耕地割合がいかにか少ないか、これによってもわかるであろう。そのうえ、耕地の大部分が東部の沿海地区に集中しているところに問題がある。

もちろん、国土の一％といっても、耕地の総面積は一億七〇〇万ヘクタールと、日本の領土面積の約三倍になるが、全人口の八割以上に及ぶ農民がその上に集中しているため、農家人口一人当りの耕地面積は、総人口を八億として〇・一六ヘクタール、九億とすれば〇・一五ヘクタール前後で、わが国の〇・二三ヘク

タールに比較して三〇四割かた少ない。

このように、農家人口一人当りの耕地面積が少ないということは、とりもなおさず、自家消費以上の生産が困難であることを意味する。中国のように人口の大部分が農業に従事している国で、農民がその日の糧に追われるようでは、経済成長もなにもあつたものではない。そこで中国当局は、単位面積当りの収量を引き上げると同時に、耕地面積全体を拡大するため、非常な努力を払つた。しかし、少なくとも耕地面積の拡大に関する限り、現在までのところ当局の努力は完全に失敗であつた。表1・1にみる通り、中国大陆の耕地面積は過去四半世紀にわたつてほとんど変化しなかつたのである。

当局者によると、中国にはほぼ既存の耕地面積に匹敵する未開墾地が存在するといわれているけれども、そのほとんどは、作物を栽培することが植物学的に不

表 1.1 耕地面積、灌漑面積、被災面積

(万ヘクタール)

年 度	耕地面積	灌漑面積	被 災 面 積		
			全 面 積	干 害	水 害
1949	9,788	1,600	852		
50	10,035	1,666	512	41	471
51	10,367	1,866	378	233	147
52	10,791	2,133	443	259	184
53	10,852	2,200	367	67	319
54	10,935	2,333	1,200 ^③	32	1,154
55	11,015	2,466	1,184	413	307
56	11,182	3,200	720	433	1,099
57	11,183	3,466	1,532	966	566
58	10,778	6,666	1,533	3,133	
59		7,132 ^④	4,333	2,133	2,200
60		5,467 ^⑤	6,000	4,000	
61			6,050 ^⑥		
1964	10,667 ^⑦				
1972	10,700 ^⑧				

(出所) ① 耕地面積、灌漑面積は1958年まで「偉大な十年」による。

② 被災全面積は「新中国年鑑」(1964年版)、干水害別面積は「中共総合要覧」(1967年版)による。後者の合計は必ずしも前者に一致しない。

③ 1960年4月譚震林報告。

④ 1961年1月の9中全会公報。

⑤ 「計画経済」誌1957年N.8。

⑥ 「ペキンレビュー」(1964. 3. 13)。

⑦ 人民日報1964年3月5日。

⑧ Geography of China. Peking, 1972。

可能でないというだけの土地か、またはこれまでの中国の力では手に負えないほど多額の投資があつてはじめて農耕に利用できる土地であつた。

2 乏しい森林資源

中国大陸の森林面積は歴史的な乱伐によつて激減し、一九五四年当時、全国土面積の七・八％になつていた。日本の森林面積は全国土の六〇％以上、世界全体の平均は約三〇％であるから、中国大陸の森林面積がその国土に比していかに少ないかわかるであろう。その後、この割合は一〇％前後にまで上昇しているけれども、いずれにせよ少ない事実に変りはない。しかも、この少ない森林資源は著しく偏在しており、東北（旧満州）に五割以上、雲南、四川などの西南地区に約

三割が存在し、残りの広大な中国大陸は森林の皆無のところが大部分である。

干害と水害の頻発

このような森林資源の状況は、中国経済に対して測り知れないほど大きな影響を与えている。まず農業に対する影響としては、干害（日照り）と水害の頻発をあげねばならない。もともと中国大陸の降水量は、季節および年によって偏差が大きい。しかも多くの山がまったくの禿山であるため、森林の保水作用がなく、河川の流量が最大と最小で数百倍も違い、干ばつと水害が頻発する。中国大陸では、紀元前二〇六年から一九三六年までの間に、比較的大きな水害が一、〇三一回、干害が一、〇五〇回と記録されているから、毎年のように大きな水害か干害が発生していたことになる。